

和歌山市立浜宮小学校

平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

調査内容

実施日：平成 28 年 4 月 19 日(火) 実施対象：6 年生 3 学級 78 名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・算数の 2 教科について、「知識」と「活用」の 2 種類の問題が出題されます。**国語 A・算数 A**では、身につけておかなければ後の学年の学習内容に影響を与える系統的な問題や、知識・技能などの基礎的な内容について出題されています。**国語 B・算数 B**では、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、課題解決のための見通とおしを立てて実践し、評価・改善する力などについて出題されます。

教科調査の結果分析より

《国語科の調査結果に見える本校児童の傾向》

■よかったところ

学年の配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりする問題は、6 問ある中で、6 問とも県、全国平均を大きく上回っています。日頃から、ドリル学習や読書活動を通して定着したものと思われます。(国語 A)

■課題① ローマ字を読んだり書いたりすることに課題が見られます。

例えば、ローマ字で書くとき、「りんご」のように濁音や、「あさって」のように促音を含む場合の正答率が低いです。さらに、「hyaku」のように拗音を含む場合のローマ字の読みも同様の結果です。(国語 A)

■課題② 書く活動は、授業で書く時間を確保していますが、決められた字数内で自分の考えを端的に表すことの正答率が低いです。(国語 B)

《算数科の調査結果に見える本校児童の傾向》

■よかったところ

整数・小数のわり算の解き方や確かめの仕方は十分理解しています。(算数 A)

■課題① 整数の大小や不等号で表すことは理解できています。

小数の大小の比較を表すことの正答率が低いです。
小数も整数と同じ考え方でできることを復習していきます。(算数 A)

■課題② 複数のグラフを読み取ったり、示されているグラフを根拠に理由を考えたりする問題の正答率が低くなっています。グラフを比較するときは、それぞれの目盛の大きさに注意して読み取ることが大切です。算数だけでなく社会や理科の授業を通してグラフを読み取る活動を取り入れていきます。(算数 B)

質問紙調査の結果分析より

児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

《自尊感情の高まりについて》

自分の良さに気付いたり失敗を恐れず最後までやり遂げたりする力が育っています。

また、友達の前で自分の考えや意見を発表することを得意と感じている児童の割合も県や全国平均よりも高くなっています。

《地域社会への関心について》

地域や社会で起きている問題や出来事への関心はやや低い結果となっています。

地域とのつながりを深めるためにも、地域の方々との交流を取り入れた学習を進めていく必要性を感じています。

《家庭学習について》

家庭学習は、各学年に応じた家庭学習の手引きをお配りしています。調査の結果から見て、復習をする習慣をつけることが大切と考えます。ドリル的な学習は大事ですが、学年が進むにつれ、自分の考えをまとめたり、考えを表現したりする学習も指導していきます。

※「朝食を毎日食べていますか。毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問に対し、90%以上の児童が「している」、または「どちらかといえばしている」と答えています。基本的な生活習慣が身につけていることは保護者の皆様のご協力のおかげです。これからもよろしくお願いします。

調査結果を受けて、本校が具体的に取組んでいくこと

《家庭学習の充実》

ドリル学習だけでなく、予習や復習を中心にした学習を進めていきます。また、自分に合った方法で、主体的に学習できるよう自主学習の仕方も併せて指導していきます。

《授業の充実》

授業では、めあてをもたせ、考えたことを書く活動を積極的に取り入れていますが、今後も自分の考えを文章や図で表し、友達に伝える活動を意図的に取り入れていきます。また、今日の学習がどうであったのか、授業の終わりには、学習を振り返る時間を位置付けていきます。

《書く力を高める》

上記でもお示した通り、自分の考えたことを理由や根拠をはっきりさせながら書く活動をこれからも続けていきます。

《地域・社会への関心を高める》

地域や社会の出来事に関心を深めるために、総合的な学習の時間を活用し地域に残る歴史や行事に目を向けたり、高学年で、新聞を活用した授業を行ったりします。